

第6回子ども樹木博士リーダー交流会（概要）

平成20年11月30日（日）13:00～16:00

日本大学生物資源科学部（神奈川県藤沢市）

参加者：46人

- 1 はじめに、当協議会の会長である木平勇吉先生（東京農工大学名誉教授）から開催に当たっての挨拶がありました。

続いて、ご来賓としてご出席いただいた林野庁業務課国有林野総合利用推進室の野口浩司室長から、本年度から始まった「子ども農山漁村交流プロジェクト」やこうしたこと



に対する国有林野の提供等の話を交えて、ご挨拶をいただきました。また、同じく林野庁計画課森林総合利用・山村振興室の高木鉄哉課長補佐からもご挨拶をいただきました。

次の活動報告からは、木平会長の司会進行により進められました。

- 2 活動報告では、日本大学生物資源科学部と地元の小学校がタイアップした「子ども樹木博士」の取組について、全体的なことに関しては日本大学教授の井上公基先生から、小学校からの依頼を受けて実施する立場で日本大学学生の喜来あゆみさんから、依頼した立場で藤沢市立小糸小学校教諭の高津浩之先生から、それぞれ報告いただきました。

井上先生からは、日本大学におけるこれまでの取組に関して、子ども樹木博士プログラムの役割・メリット・実施後の子どもの反応、今後の課題として天候に対応したプログラム、プログラムの継続性、インストラクターの負担等についてお話いただきました。

喜来さんからは、日本大学における取組について、その進め方に関しては学校等からの依頼を受けて、リーダーの決定、小学校との事前打合せ、インストラクターの募集、実施場所の下見、プログラムの作成、依頼先への確認、インストラクターとの打合せ、プログラムの実施、実施後の反省会、そして報告書の作成までの流れに沿って、また、小学校での実施状況に関しては大人数型・小人数型・

親子参加型のタイプに分けて，そのほか，活動におけるワークシート，アンケート，認定証や記念品のことなど，いろいろなことについて具体的かつ詳細なお話をいただきました。

高津先生からは，日本大学の協力により小糸小学校で実施した「生きもの博士」（子ども樹木博士）の取組（3年生・年2回，4年生・年3回）について，活動場所のこと，活動の内容，インストラクターの指導等のことなどをお話いただきました。

- 3 次に，今回の交流会の野外プログラムとして，参加者全員が1グループ当たり5～6人，7グループに分かれ，日本大学学生の飯野貴美子さんの総合指導により，「日本大学キャンパスで，子ども樹木博士の出前体験」の実習を行いました。



グループごとに日本大学の学生さんをインストラクターとして，キャンパス内の樹種8本（シラカシ，ツバキ，イチヨウ，ケヤキ，クヌギ，マテバシイ，シロダモ，スギ）を目で見ながら，説明を聞き，そして，教室で枝葉の標本により樹木の名前を当てるテストを体験しました。

テストの結果は……。8本満点で「子ども樹木博士3級」です。

- 4 最後に，参加者全員により，先の活動報告等について意見交換を行いました。主な意見等は次のとおりでした。

- ・大学等で子ども樹木博士を進める場合，インストラクターの確保が重要である。
- ・インストラクターには樹木のプロのような者にとわかインストラクターがいる。
- ・インストラクターは一夜漬けでも何とかできるが，プログラムをコーディネートするリーダーは簡単ではない。リーダーの育成が必要である。
- ・子ども樹木博士の実施に当たって枝葉を採取してはいけない場所があり，そうした場合，日本大学ではあらかじめ構内のものを採取して準備している。
- ・学生がボランティア活動として実施する場合，平日は授業と重なることが多く，対応が難しい。（また，ボランティアであっても少なくとも交通費程度は必要）

